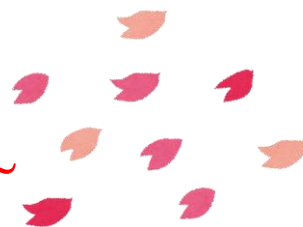


薬の伝言板

～めまい～



No. 245 2018年 4月

丸子中央病院 薬局

今回はめまいとその代表的な疾患・治療薬についてご紹介いたします。

<めまいの種類>

【回転性めまい】




自分自身がグルグルまわったり、周囲がグルグルまわったりする症状を言います。物が左右や上下に流れるように感じることもあります。内耳の病気が原因の場合が多いです。

【非回転性めまい（動揺性・浮動性）】

頭やからだがグラグラ揺れている感じや、フラフラします（動揺性）。またからだがフワフワしたり、宙に浮いたりします（浮動性）。

<めまいの症状と主な疾患>

様々な原因からめまいは起こりますが、めまいに伴うその他の症状からその原因を考えます。

めまいのみ 	起立性低血圧（脳性貧血） 良性発作性頭位めまい症 前庭神経炎、脳梗塞 など
手足のしびれ 頭痛 ろれつが回らない 	動脈硬化 脳血管障害（脳梗塞、脳内出血、一過性脳虚血発作） など
耳鳴り 難聴 吐き気 	メニエール病 突発性難聴 など

※脳腫瘍、ストレス、更年期障害、貧血、過労、薬の副作用（降圧薬や向精神薬など）によっても、めまいを起こすことがあります。

上記のように、めまいの原因には様々な疾患がありますが、やはり最も多いのは耳の病気からくるめまいです。耳の病気により平衡感覚に関与する器官に影響を生じ、耳鳴り・難聴といった症状が現れます。耳からくるめまいで最も有名なのがメニエール病です。

<メニエール病>

- ・ 血行障害や自律神経障害から内耳のリンパの流れが滞り増大する事（内リンパ水腫）により、リンパ内圧が上昇し耳の内部の器官に障害が起きることのでめまい等の症状が出る疾患。
- ・ 反復性の激しい回転性めまいと、悪心・嘔吐、耳鳴り、耳閉塞感、難聴などの症状が現れます。

<治療薬>



めまいに対しては、浸透圧利尿薬、H1 受容体拮抗薬、循環改善薬などを用います。

浸透圧利尿薬	イソバイド (イソソルビド)	利尿作用により内リンパ水腫を軽減させます。 味が強いので、冷蔵庫で冷やすと飲みやすくなります。
循環改善薬	メリスロン (ベタヒスチン)	内耳の血流を増やすことにより、回転性のめまいを和らげます。 メニエール病、めまい感の軽減に用いられます。
	セファドール (ジフェニドール)	椎骨動脈の循環を改善します。 椎骨脳底動脈循環不全や内耳障害が原因のめまいの治療に用いられます。
	アデホスコーフ顆粒 (トリノシン)	血管を拡張して血流を改善します。 メニエール病や内耳障害が原因のめまいの治療に用いられます。
	メイロン (炭酸水素ナトリウム)	急性期のめまい発作を鎮静します。
H1 受容体拮抗薬	トラベルミン (ジフェンヒドラミン・ジプロフィリン)	めまいや嘔吐に関わる神経を鎮めます。 メニエール病の他に、乗り物酔いにも用いられます。

心理的要因（ストレス）が関与するめまいには抗不安薬が処方されることもあります。

抗不安薬	デパス（エチゾラム） セルシン（ジアゼパム）	抗不安作用によりめまいを鎮静化します。
------	---------------------------	---------------------

めまいに伴う吐き気や嘔吐を抑える薬も一緒に処方されることが多いです。

DII 受容体拮抗薬	プリンペラン（メトクロプラミド） ナウゼリン（ドンペリドン）	嘔吐中枢に作用し、悪心・嘔吐を抑制します
------------	-----------------------------------	----------------------

また、症状により副腎皮質ステロイドを用いることもあります。

めまいは様々な原因によって起こります。耳の異常で起きるめまいだけでなく、脳の異常で起こるめまい、高血圧や糖尿病などめまいを引き起こす疾患やそれらの治療薬の副作用によるめまいなど、命にかかわる重篤な疾患もあります。

また、高齢者では特にめまいを起こしやすく、めまいが起きると転倒するリスクが高まるなど二次的な影響もあります。軽い症状でも放置せずに早めの受診をお勧めします。